

## 令和3年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

- 「高い志」と「夢」をもち、様々な分野でグローバル社会において活躍する人材を育成する学校
- 1 探究心を育成し高い学力をつけるカリキュラムを基盤とした学習指導に取り組む学校
  - 2 異文化の多様性の理解などの人権感覚と英語力を基盤とした国際感覚の育成に取り組む学校
  - 3 生徒の自主的かつ協同的活動を促す行事や部活動を通じて、リーダーとしての資質の育成に取り組む学校
  - 4 地域でのボランティア活動や地域の自治体・学校等と連携した探究学習等を通じて、社会に貢献する自律した人材育成に取り組む学校
  - 5 生徒の進路希望ができるようキャリア教育を通じてチャレンジ精神の涵養に取り組む学校

## 2 中期的目標

- 1 進路を切り拓く学力の育成
  - (1) 生徒の学習を支援するプログラムを実施し、自学自習を促進し、校内外での学習習慣を確立させる。
    - ア 1・2年生全員を対象に学習支援プログラムを行い、高校での授業及び自学自習に取り組むための態度を身につけさせる。
    - イ 感染症対策及び生徒1人1台端末の導入を踏まえ、ICT機器を活用した授業や自宅学習等による知識・技能の定着を図る。
    - ウ 各教科の授業において、自分の考えをまとめ発表する機会を充実させ自律的な学習態度を身につけさせる。
    - エ 課題研究において、大学生・大学院生のTA（ティーチングアシスタント）を活用するなどし、きめ細やかな指導を行い、ルーブリック評価で検証し課題研究の質の向上を図り、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力を身に付けさせる。
  - ※ 授業におけるICT機器の活用90%（平成30年度62.2%、令和元年度76.3%、令和2年度94.7%）、授業において生徒が発表する機会90%（H30 70.2%、R1 85.9%、R2 91.5%）、課題研究のルーブリック評価3.5以上の維持（H30 3.5、R1 3.6、R2 3.6）
  - (2) キャリア教育の充実と進路第一志望の実現
    - ア 生徒自身が高い目標を設定し、大学進学や将来に向けてのキャリアへの展望をもち、チャレンジ精神と忍耐力を育む担任団を中心としたサポート体制を確立する。
    - イ 同窓生等を講師とした職業希望別進路講演会を行い、生徒の望ましい職業観育成をめざす。
    - ウ 全員が志望大学のオープンキャンパスに参加し、参加報告書の作成にあたり、京都大学、大阪大学等での研究室見学を促進する。
    - エ 授業はもとより、土曜活用（講習、セミナー）、進路指導の充実により、進路第一志望の実現割合を増加させる。
  - ※ スーパーグローバル大学及びグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数130名以上を維持する。（H30 121名、R1 153名、R2 163名）
- 2 グローバルに活躍する人材育成
  - (1) 「志」の育成
    - ア 将来のグローバルリーダーの資質として必要な社会貢献の意識を醸成するための道徳教育を、「志<sup>こころざし</sup>」学として、ボランティア活動等の体験的活動を通じて行い、その成果の実践報告書を作成し、道徳観や学びに向かう力を育成する。
    - ※ 「志」学の取組みの一つである地域交流事業の参加者（対象2年生）100%実施を維持していく。（H30 100%、R1 100%、R2（実施せず））
    - イ 人権の大切さを理解し、多様性に対応し行動できる人間性を育てる。
  - (2) 英語によるコミュニケーション力の育成
    - ア 高度な4技能（リスニング・リーディング・ライティング・スピーキング）の養成に向け、4技能統合型の授業を行い、生徒全体に対してグローバル人材に必要とされる英語運用能力の育成に取り組む。
    - イ 1、2年生の希望者を対象に英語即興型ディベートを取り入れて、英語運用能力を育成する。
    - ウ 1年次の課題研究において、大阪大学等の留学生との英語による交流を実施し、英語運用能力を育成する。
    - ※ CEF R-J B1.2 レベル相当以上の生徒を、1年生は10名以上、2年生は15名以上、3年生は20名以上とする。（R2（1年生）14名、（2年生）12名（3年生）71名）
  - (3) SSH事業（令和2～6年度）・WWL事業（平成31～令和3年度）の推進
    - ア 世界レベルあるいは全国レベルのコンクールで入賞者を出そうとするよう、各種コンテスト等に参加させ、高い志を維持させる。
    - イ 科学リテラシー・プレゼンテーション能力・英語運用能力等の育成するプログラムを土曜セミナーとして実施する。（SSH事業）
    - ウ 国内での科学（物理、化学、生物、地学）研修を継続実施するとともに、海外での研修旅行を行い、国際交流を通じて科学的な見方、考え方、表現力等を育む。（SSH事業）
    - エ 事業の主題となる「健康・福祉・幸福」に係る課題研究を通じて創造的なプログラムを研究開発する。（WWL事業）
    - オ 豊中市及び能勢分校が有する様々な教育資源を活用し、SSH事業（文理学科理科）・WWL事業（文理学科文科課題研究）の充実をめざす。
    - ※ SSH事業では毎年国への報告が求められるとともに令和4年度の間接評価に向けて成果が求められる。
- 3 教員の資質向上と「働き方改革」に向けた取り組み
  - (1) 令和4年度以降の学習指導要領に対応できるよう教員の研鑽の機会をもち授業力・評価力向上を図り、豊高版教職スタンダードの策定をめざす。
  - (2) 通常時の教育相談事案に加え、感染症に係る教育相談事案について、SC等との連携を通じて、カウンセリングマインドの醸成を図る。
  - (3) 全校一斉退庁日及びノークラブデーを活用し、教職員一人ひとりの意識改革を推進し、勤務時間管理及び健康管理を徹底させる。
  - ※ 授業アンケートにおける総合平均は継続して3.2以上をめざす。（H30 3.2、R1 3.2、R2 3.29）
  - ※ 超過勤務時間が年間800時間を超える職員0をめざす。（H30 6名、R1 4名、R2 3名）

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R2年度値]	自己評価
1 進路を切り拓く学力の育成	<p>(1) 生徒の学習を支援するプログラムを実施し、自学自習を促進し、校内外での学習習慣を確立させる。</p> <p>(2) キャリア教育の充実と進路第一志望の実</p>	<p>(1)</p> <p>ア 1・2年生全員を対象に学習支援プログラムを行い、高校での授業及び自学自習に取り組むための態度を身につけさせる。</p> <p>イ 感染症対策及び生徒1人1台端末の導入を踏まえ、ICT機器やオンラインを活用した授業や自宅学習等による知識・技能の定着を図る。</p> <p>ウ 授業において、自分の考えをまとめ発表する機会を充実させる。</p> <p>エ 生徒の課題研究の充実を図るため、大学生や院生をTA(ティーチングアシスタント)として活用し、ルーブリック評価で検証する。</p> <p>(2)</p> <p>ア 生徒が目標を持った大学進学をめざし、高い目標に向かってチャレンジ精神を持ちつづけ、粘り強く取り組む姿勢を育み、サポートするとともに、PTAメーリングリストを活用し、保護者への進路情報を定期的に発信するなど、生徒・保護者・学校の進路指導體制の充実を図る。</p> <p>イ 生徒の望ましい職業観育成のために、同窓生等が行う職業希望別進路講演会を実施する。</p> <p>ウ 1、2年全員が志望大学のオープンキャンパスに参加(web参加を含む)し、参加報告書を作成する。</p> <p>エ 京都大学、大阪大学・神戸大学・大阪市立大学・関西学院大学等の見学、研究室訪問を行う。</p> <p>オ 授業、土曜講習、進路指導により進路第一志望を実現する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 学習サポートプログラムにおける生徒の満足度90%以上[90.3%]</p> <p>イ 授業におけるICT機器の活用90%以上[94.7%]</p> <p>ウ 学校教育自己診断(生徒用1年生)「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある」90%以上。[91.5%]</p> <p>エ SSH評価3.0以上、WWL評価3.0以上[SSH3.8、WWL3.4]</p> <p>(2)</p> <p>ア・京大・阪大・神大の志願者150名以上[223名]</p> <p>・学校教育自己診断(保護者用)「進路に関する連携の肯定的回答」60%以上[76.9%]</p> <p>イ 学校教育自己診断(生徒)「将来の進路や生き方について考える機会がある」85%以上[86.7%]</p> <p>ウ 全員・提出参加[100%]</p> <p>エ 参加者100名以上[0名]</p> <p>オ スーパーグローバル大学及びグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数110名以上[163名(現・浪合わせて)]</p>	
2 グローバルに活躍する人材育成	<p>(1) 「志」の育成</p> <p>(2) 英語によるコミュニケーション力の育成</p>	<p>(1)</p> <p>ア 地元豊中市や能勢町と連携し、公民館・小中学校・高齢者施設等の取組みや活動に、主として2年生が参加し、体験的活動を行い、自己有用感や社会貢献の志を育てる。</p> <p>イ 感染症やネット上の人権侵害事象等、今日的人権課題を学習し人権感覚を高め行動できるようにする。</p> <p>(2)</p> <p>ア 4技能統合型の英語の授業を行い、ハイレベルの英語コミュニケーション力を育成する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア アンケート(生徒向け)における活動に肯定的な回答85%以上[データなし、R元年度88%]</p> <p>イ 人権の大切さの理解し行動できるようにする80%以上[78%]</p> <p>(2)</p> <p>ア CEFR B1レベル相当以上</p> <p>1年生10名以上・2年生15名以上・3年生20名以上[1年生14名、2年生12名、3年生71名]</p>	

2 グローバルに活躍する人材育成	<p>(3) SSH事業・WWL事業の推進</p>	<p>(3) ア 全国レベルのコンクールで入賞者を出すことができるよう、各種コンテスト等に参加させ、高い志を維持させる。</p> <p>イ 科学リテラシー・プレゼンテーション能力・英語運用能力等の育成するプログラムを土曜セミナーとして実施する。(SSH事業)</p> <p>ウ 国内外での研修や小・中学生向け実験教室を実施し、科学的な見方、考え方、表現力等を育む。(SSH事業)</p> <p>エ 医療・福祉・幸福に係る課題研究を通じて創造的なプログラムを研究開発する。(WWL事業)</p> <p>オ 豊中市や能勢分校が有する様々な教育資源を活用し、SSH・WWL事業の充実をめざす。</p>	<p>(3) ア 全国レベルのコンテスト入賞 [JICA 国際協力中学校・高校生エッセイコンテスト 特別学校賞+佳作1件、大教大作文コンクール最優秀賞、大阪サイエンスデー銀賞、SSH 生徒研究発表会生徒投票賞、高等学校パラメンタリーディベート連盟杯英語ディベート優秀賞]</p> <p>イ SSHアンケート「科学に興味関心をもった生徒」90%以上[90.8%]</p> <p>ウ 延べ研修参加生徒 100名以上[203名]</p> <p>エ WWLアンケート「課題研究に興味関心をもった生徒」80%以上[88%]</p> <p>オ 豊中市・能勢分校との連携回数 20回以上[10回]</p>	
3 教員の資質向上と「働き方改革」に向けた取り組み	<p>(1) 令和4年度以降の学習指導要領に対応できる授業力・評価力の向上</p> <p>(2) SC等との連携を通じたカウンセリングマインドの醸成</p> <p>(3)、教職員一人ひとりの意識改革による勤務時間管理、健康管理の徹底</p>	<p>(1) 新学習指導要領に基づく指導法や観点別評価についての研鑽・議論を深め、外部への授業公開大会を実施するなどして令和4年度の本格的実施に備える。</p> <p>(2) スクールカウンセラー等外部人材の活用、医療機関から得た情報を基に生徒指導・教育相談等の実践的スキルの向上を図る。</p> <p>(3) 全校一斉退庁日の周知徹底を図るとともに、管理職による指導・助言等を徹底する。</p>	<p>(1) 授業アンケート評価 3.2以上[第1回 3.29、第2回 3.29]</p> <p>(2) 学校教育自己診断(生徒)「担任以外に気軽に相談できる先生がいる」50%以上。[51.4%]</p> <p>(3) 年間800時間以上超過勤務時間を有する教職員3名以下[3名]</p>	